

JAQG 協賛メンバー訪問 ー大阪冶金興業株式会社様ー

1. はじめに

航空宇宙品質センター（JAQG）は 2001 年の創設から 25 周年を迎えます。この記念企画の一環として、協賛メンバー様への訪問を開始しました。

JAQG では年に一度、活動報告会を行い、多くのメンバーの方にご参加いただいておりますが、各協賛メンバーの方の声を十分に拾い上げられていないのではないか、という問題意識がありました。本企画は、9100 規格の動向などについて率直な意見交換を行い、協賛メンバーの方の現場の声を拾い上げるとともに、IAQG や JAQG に対して親近感を持っていただくことを目的としており、話しやすい雰囲気となることを心掛けました。

2026 年 7 月 24 日、この企画の第 3 弾として、大阪冶金興業株式会社様（兵庫県三木市別所町巴 25 番地）への訪問を実施いたしました。

2. 大阪冶金興業株式会社様のご紹介

同社は 1941 年創業、資本金 1 億 9,300 万円、従業員 140 名の会社です。日本陸軍の戦闘機「飛燕」のエンジン部品の熱処理加工を祖業として、戦後はガスタービンのブレードや宇宙探査衛星の燃料タンクの部品製造、また近年では医療分野にも進出し特に人口骨は特記すべき技術です。

三菱重工業(株)様との関係が深く、共同開発も行われています。

熱処理技術に強く、1970 年には国内初の油冷却式真空熱処理炉を導入されるなど、最新技術に対しても積極的な投資をされています。特に真空熱処理に関して多くの設備を所有し、国内最大級の冷却式真空熱処理炉を所有されています。

航空宇宙への本格的な進出はこれからですが、MIM（Metal Injection Molding）を武器として、高精度、高レート生産を実現しようとしています。大阪冶金様では通常より大型の MIM 製品を製造する設備を有しておられ、また安定的な製造のために原料となる金属粉についても自社管理を行っておられます。このため、Nadcap の取得を目指しているとのことでした。

MIM とは：MIM 技術は金属粉末とバインダー（結合剤）を混合してペレット状の原料を作り、射出成形機で金型に射出することで複雑形状の金属部品を製造する方法です。特徴としては、複雑形状への対応、高強度、寸法精度が高いことなどが挙げられます（大阪冶金様 HP より）

当日は花見取締役、嘉田常務、山室品質保証部長及び宮崎様（オンライン）にご対応いただきました。JAQG からは新明和工業（株）友清部長、住友精密工業株式会社濱中部長、SJAC 城福が訪

問いたしました。



（左から）花見取締役（大阪冶金）、城福（SJAC）、濱中部長（住友精密）、友清部長（新明和）、山室部長（大阪冶金）、嘉田常務（大阪冶金）

会社説明の際、特に熱処理に関して訪問者の友清部長、濱中部長を含めて非常に話が盛り上がり、双方にとって有意義な意見交換ができたと思います。

3. JAQG 説明

対面ならではのオープンでフランクな雰囲気のもと、担当者の実体験や言葉を交えた解説を行いました。



3.1 JAQG/IAQG 紹介（説明者：SJAC 城福）

IAQG/JAQG の活動概要、ボランティアベースでの運営体制、規格開発への主体的な参画について説明し、日常的な疑問や要望の窓口としての JAQG をアピールしました。

3.2 規格の最新動向（説明者：新明和 友清氏）

9100 規格の改訂動向を解説しました。特に、国家規格である JIS Q 9100 が今回の改訂では IAQG の民間規格としての IA9100 へシフトし、全世界的に発行時期を統一していく点について説明をしました。

3.3 9150 規格およびツール紹介（説明者：住友精密工業 濱中氏）

IAQG が中小企業向けに開発中の 9150 規格概要を紹介しました。具体的な内容が定まっていないため、概念的な説明となりましたが、IAQG の動向についてご理解頂けたと思います。

4. 意見交換

特に規格や熱処理関連について意見交換を行いました。

4.1 9100 について

9100 の要求事項については、やらなければならないことが要求されていると感じており、納得できる内容であるとのことご認識でした。

また 9001 の要求ですが、環境に対する要求については、特に熱処理を行っている関係から、機械への影響は考慮しなければならず、計測時の温度湿度の管理を手順書に反映する必要があるだろうとの認識を示されました。

4.2 熱処理について

■ 計測器の管理と相互認証

熱電対の管理や検定、較正が大変であるとのことで、Nadcap を取得するともっと大変になる。Nadcap で要求される相互認証についてはレベル 3 の作業者を維持することが大変と

言う認識が示され、JAQG からは他社と協力して相互に認証するなどの対応をしていることが示されました。

■ 熱処理の規格と Nadcap

熱処理の規格として AMS2750 ベースとなりつつあるが、改定ペースがはやく追従するのが大変であるとのコメントがありました。また、Nadcap の取得を目指しているが、どこにどう相談すれば良いかなど、JAQG のサポートがあると助かるのご意見を頂きました。

JAQG では Nadcap 取得のコンサルタント的なサービスは提供していないものの、これから Nadcap 取得を目指す企業に対して何かしらの情報提供ができるように検討したいと思います。ご参考までに PRI のセミナーや JAQG が計画している Nadcap イベントなどについて紹介いたしました。

4.3 IAQG Podcast や AIMM の紹介

IAQG の規格への理解を深めるためのツールとして IAQG の Podcast (Quality Horizon) をご紹介しました。Quality Horizon では担当者へのインタビューなど IAQG に関わる広範な話題について、担当者の肉声を聞くことができます。JAQG ではこの Podcast を日本語に翻訳し、AI を用いた日本語音声版も作成しており、是非ご活用いただきたい旨をお伝えしました。

(https://jaqg.sjac.or.jp/iaqg_podcast.html)

また、自社の 9100 規格への適合性について確認する AIMM (Aerospace Industry Maturity Model) について紹介しました。

4.4 航空機の需要予測について

ごく簡単にですが、日本航空機開発協会 (JADC) が発表している航空機需要予想などを元に、今後の需要予測などについて話題提供をいたしました。普段は需要予測のようなテーマに触れることは少ないとのことで、良い機会になったかと思います。

5. 大阪冶金興業株式会社様からの声

弊社では MIM 部門のみならず、熱処理部門でも航空宇宙への進出を目指しております。その中で関連する様々な情報をいただけたことは非常に有益でした。引き続き、ご指導、ご支援賜れば幸いです。

6. 最後に

お忙しい中お時間を割いていただいた大阪冶金興業株式会社の皆様には、改めて感謝申し上げます。

また、顔を合わせて話ができただことで、JAQG への親近感を持っていただき、要望等を伝えやすい環境造りができたのであれば幸いです。

以上